

しかし、今回進められている省内検討会議の就労支援の基本的な方向性においては、次のような考え方が示されていると聞いている。

①雇用・就業が第一の選択しと位置づけた上で

②授産施設等の機能の見直し、一般就労への移行を進める。

とあり、細目では授産施設と言う「箱」のあり方のみが対象であり、この考え方では、すべての障害者の雇用・就労を受けとめる施策とは言えず修正が必要である。

その理由は、本格的な保護雇用が制度化されていない下での我国の障害者雇用、就労は必然的に、一般企業への雇用のみが、唯一の選択視であるからである。

働きたい意欲を持っていても、障害の程度で一般雇用につながらない人や、競争社会の中での雇用・就労を望まない障害者に対する雇用・就労のあり方として、一般企業への雇用施策と共に新しい雇用の施策を示すのが、本会に課せられた重要課題として議論すべきである。

企業等への雇用・就業の選択視が唯一であることが、多くの不就労者を出しており、それ自体が障害者基本計画で述べている「すべての障害者の目的実現」に対する、差別につながっていないかを検証すべきである。

また、授産施設等利用者の中には、企業離職者や、養護学校卒業者等障害のために一般雇用につながらない人々が福祉支援の下で、心の安心を担保に、日々就労に参加しているケースも多くあり、一般企業への雇用移行だけがすべてではない。

障害者の就労に対しては、その人の持っている状況を受け止める為の【多様な選択肢】を制度化すべきである。

もし、授産施設と言う「箱」に着目し、その機能だけをみなおし、一般就労への移行の促進施策だけを、今回クローズアップさせた場合、障害者の雇用・就労に対する差別化につながる懸念性を投げかけることにもなる。

その理由は、大きく二つある。一つは、現状の施設における法律上の機能と実態機能の違いや、施設の地域偏在、施設の絶対数の不足などによって、本来利用すべき施設を利用できない状態を放置したまま、授産施設の利用者のみを対象とした雇用・就労対策では、すべての障害者に着目した施策とは言えず、知的更生施設を始めとする、他の施設利用者との間に雇用・就労施策に対する処遇の格差を増大することにつながる。

二つ目は、現在障害者施設種別が約60種類程あり、それぞれに問題を抱えていることから、厚生労働省は昨年度から2ヶ年間の厚生科学研究事業として委員会を設け、全施設の体系・機能のあり方について、今まさに議論を深めている最中であり、近々中間報告が出される状況下にあるのに、何故、突然授産施設の見直しだけを打ち出してきたのか、その整合性が問われる。

パッチワーク的な改革は、避けなければならない。すべての障害者に着目した施設改革でなければ、雇用促進における差別化につながる。

□障害者のはたらく＝実践報告

企業等から就労を拒否された人々に対する
福祉支援による地域生活の実践。

＝「はたらく」と「くらす」の施策は
表裏一体のものである＝

☆経過

平成9年、複数収容型の身体障害者入所授産施設（定員40名）を廃止し、企業等からの離職者や養護学校卒業者の就労の場としての、身体障害者通所授産施設（定員55名）を新設。地元から要望の強かった、知的障害者通所授産施設（定員50名）を同時開設する。

☆利用者の入所前

	身体障害者通所授産施設	知的障害者通所授産施設
定員	55名	50名
現員	54名	50名
企業離職者	22名（40.7%）	26名（52.0%）
養護学校	23名（42.6%）	8名（16.0%）
他の施設	4名（7.4%）	11名（22.0%）
能力訓練校	0名（0.0%）	3名（6.0%）
在宅	0名（0.0%）	1名（2.0%）
その他	5名（9.3%）	1名（2.0%）

※特徴は、両施設とも企業からの離職者が多いことである。

□資料 1 一 所 得

・賃金 最低 625千円（月平均 52千円）1種1級 CP・両下肢及聴覚のD障害
 最高 2754千円（ ” 229千円）1種2級 左手マヒ及聴覚のD障害
 平均 1152千円（ ” 96千円）

・平均所得（賃金＋年金）
 2100千円

・障害度

1種 30名
 2種 10名

・ダブル障害

10名

・CP

21名

No	障害名	障害等級	年合計	年金	収入合計
1	脳出血右上下肢機能	1-1	770,049	1,404,000	2,174,049
2	CP四肢機能障害	1-1	1,191,630	981,900	2,173,530
3	CP両上肢機能、下肢軽度	1-1	996,465	981,900	1,978,365
4	CP四肢体幹、言語機能	1-1	986,794	981,900	1,968,694
5	CP四肢体幹機能障害	1-1	718,182	981,900	1,700,082
6	聴覚障害、CP両下肢軽度	1-1	625,001	981,900	1,606,901
7	聴覚障害、左手麻痺	1-2	2,754,723	981,900	3,736,623
8	聴覚障害	1-2	2,041,278	981,900	3,023,178
9	聴覚障害	1-2	1,846,702	981,900	2,828,602
10	両側感音性難聴	1-2	1,775,358	981,900	2,757,258
11	CP両下肢機能、両上肢軽度	1-2	1,646,864	981,900	2,628,764
12	脳出血による左半身麻痺	1-2	912,738	1,704,096	2,616,834
13	聴覚障害、両網膜色素変性症	1-2	1,298,647	981,900	2,280,547
14	CP四肢体幹機能障害	1-2	1,191,630	981,900	2,173,530
15	聴覚障害	1-2	1,176,300	981,900	2,158,200
16	両側感音性難聴、小眼球	1-2	1,074,885	981,900	2,056,785
17	聴覚障害	1-2	1,074,885	981,900	2,056,785
18	CP下半身不随	1-2	912,738	981,900	1,894,638
19	CP全身不随	1-2	960,851	981,900	1,942,751
20	四肢麻痺上肢、言語機能	1-2	802,478	981,900	1,784,378
21	CP両下肢機能障害	1-2	800,120	981,900	1,782,020
22	頭蓋内出血の四肢	1-2	665,733	981,900	1,647,633
23	脳梗塞による左半身麻痺	1-2	819,577	785,496	1,605,073
24	脳卒中による右半身麻痺	1-2	1,477,893	0	1,477,893
25	CP体幹機能障害	1-3	1,347,291	981,900	2,329,191
26	CP体幹機能障害	1-3	1,357,020	785,496	2,142,516
27	CP体幹機能、言語障害	1-3	1,279,189	785,496	2,064,685
28	CP体幹機能、知的障害	1-3	951,653	981,900	1,933,553
29	CP右上下肢機能、視力	1-3	1,142,986	785,496	1,928,482
30	感音性難聴	1-3	774,176	0	774,176
31	CP右上下肢機能障害	2-3	1,176,300	785,496	1,961,796
32	言語機能喪失	2-3	871,464	981,900	1,853,364
33	CP両上肢機能、下肢軽度	2-3	906,252	785,496	1,691,748
34	CP右上下肢機能障害	2-3	873,823	785,496	1,659,319
35	CP体幹、難聴、言語機能	2-4	1,807,787	785,496	2,593,283
36	CP四肢機能障害	2-4	933,060	981,900	1,914,960
37	CP左下肢の短縮	2-4	894,165	785,496	1,679,661
38	蜘蛛膜下出血の言語機能	2-4	1,010,910	0	1,010,910
39	右示指切断、右中指機能	2-5	1,240,274	3,812,100	5,052,374
40	両網膜脈絡萎縮、精神障害	2-5	1,176,300	785,496	1,961,796
合 計			46,086,191	38,340,756	84,426,947

□資料 2 一居住と生活支援

通常の生活は「所得保障」と生活する「家」があって成り立つ。たとえ雇用に結びついて、家族の庇護がなければ、自立生活が成り立たない支援は、本当の支援と言えない。

また、障害者が街の中で生活するには、いろいろな支援が必要な人が多くいるので「はたらく」を促進する場合、同時に「くらす」支援に配慮しなければならない。当初3人の職員を配置した。本事業では、一定の地域に20戸の住宅と、所得の少ない人やバリアフリー住宅でないと生活が厳しい人用に14戸の福祉ホームを確保した。また5人が結婚できた。

No.1～14までは2DKを2人で使用。No.15～27は1人使用。

対象者	障害等級	家賃	必要な援助内容	援助ランク	障害の内容
1男	1種3級	70,000円	①②③④⑤	A	CP右上下肢麻痺及び視力障害
2女	1-1		①②③④⑤	A	CP体幹機能障害及び言語障害
3男	1-1	70,000円	①②③④	A	CP体幹機能障害
4男	1-2		①②③④	A	頭蓋内出血による四肢体幹機能障害
5男	2-3	70,000円	①②③④	A	CP右上下肢機能障害
6男	1-2		①②③④	A	四肢麻痺及び言語障害
7男	1-2	65,000円	③④⑤	D	CP四肢機能障害
8男	1-2		③④⑤	D	CP全身不随障害
9男	1-3	65,000円	③④⑤	D	CP体幹機能障害
10男	1-2		③④⑤	D	CP下半身不随障害
11男	2-5	87,000円	①②③④	B	右示指切断及び中指機能全廃障害
12男	1-2		①②③④	B	脳出血による左半身麻痺障害
13女	1-2	67,000円	②③④⑤	B	両側感音性難聴及び小眼球障害
14女	1-3		②③④⑤	B	CP体幹機能障害及び知的障害3度
15男	1-1	61,000円	当分親族同居支援	B	脳出血右上下肢機能障害
16男	1-2	61,000円	③④	B	知覚及び両網膜色素性乱視変性症
17男	1-3	49,000円	④⑤	D	CP体幹機能障害
18男	1-3	49,000円	③④	B	CP体幹機能障害及び言語障害
19男	1-2	49,000円	③④	B	両耳感音性難聴障害
20男	1-2	49,000円	③④	C	CP両上下肢機能障害
21女	2-3	49,000円	当分親族同居支援	C	CP体幹機能障害
22女	1-2	49,000円	③④⑤	B	聴覚障害
23男	1-2	49,000円	③④⑤	B	聴覚障害
24女	1-2	49,000円	③④⑤	B	聴覚障害
25男	1-2	61,000円	③④⑤	B	聴覚障害及び左上肢麻痺
26女	1-1	70,000円	⑥当分親族同居支援	D	CP体幹機能障害
27男	1-2	63,000円	当分親族同居支援	D	CP体幹機能障害及び難聴、言語障害

(注) ●必要な援助…①居室清掃 ②定期的相談 ③買物等 ④調理 ⑤金銭指導 ⑥常時の送迎

●援助ランク…A週2回前後 B月3～4回程度 C月2回程度 D必要時